

桑名駅の開業と「すてんしょみち」

西 羽 晃

前回は桑名仮駅の開業を書きましたが、現在地に桑名駅が開業したのは明治28（1895）年5月24日でした。同時に蟹江・前ヶ須（現在の弥富）駅も開業しました。この3駅ともプラットホームはレンガ積みで、現在でも下部にレンガが見られます。木曾・長良・揖斐の三大川の鉄橋は未完成だったので、三大川は無料の渡船で連絡していました。駅と渡船場との間は有料の人力車がありました。

当時の桑名は江戸時代のままの町であり、桑名駅は町の中心部から西へ約1kmも離れていました。汽車の煤煙が降ってきて困るとか、七里の渡しを通して桑名へ来る旅行客が減るので困るとかで、桑名の町の人たちが鉄道が来ることに反対したから、町はずれに駅が出来たのだとも言われますが、私はそうは思いません。三大川の鉄橋はなるべく短くしたいし、対岸の長島中心部と前ヶ須との距離を考え、さらに町の中心部とのアクセスには三崎通から照源寺へ通じる畷道が利用できます。

畷道の起点は堤原の三叉路です。右へ行くと美濃・多度方面です。左へは照源寺への直線道路です。この三叉路の角には「右 みのだみち」「左 すてんしょみち」と刻まれた道標が建っていました。弘化4（1847）年の年号も刻まれています。「すてんしょ」とは鉄道の駅のことです。明治になって鉄道が出来た時に英語の「ステーション」をなまって「すてんしょ」と言ったのです。この道標の年号が江戸時代ですから、まだ鉄道はありません。「左 すてんしょみち」は鉄道が開通してから付け加えて刻まれたと思われます。この道標と隣の常夜燈は平成27（2015）年に地主から撤去を求められ、取りあえず多度町郷土館の前庭に横たわっています。



撤去前の道標



現在は多度町郷土館で寝ている

桑名駅開業に先立ち、駅から貨物線を敷設したとの許可願いが出されました。桑名駅から北東にほぼ直角に曲がり、太一丸の諸戸家屋敷前で住吉入江に達して揖斐川に続く線路で、約 965 メートルでした。当時は三大川の船運で多くの物資が運ばれており、それらの物資を輸送する連絡線として企画されました。しかし、許可されなかったようです。その路線は後に、桑名運河（現在では痕跡が僅かに残っていますが）として実現されました。

桑名駅は付近は何もない田圃でしたが、駅の貨物を取り扱う長谷川運送店や、三林食堂、江戸屋旅館（うかい）、しぐれ屋（貝新）が駅前に出来ました。

参考資料

「鉄道省文書」（国立公文書館所蔵）

『わたしたちの桑名市』（桑名市教育研究会発行 1971年）

「桑名駅をめぐる小論—桑名駅開業百周年によせて—」（西羽晃著 『桑名市博物館紀要第5号』所収 1997）

『シロー物語 第一部 青春篇』（鵜飼史郎著 1999年）